

ビターピット対策

1. ビターピットとは？

果実中の石灰（カルシウム）が不足することで発生する生理障害です。

「つがる」、「ジョナゴールド」、「玉林」で特に多く発生し、樹上にあるうちはもちろん貯蔵中にも発生します。



果実の赤道部から下の方にかけて2～10mmの斑点ができます。
皮をむくとコルク状の斑点が現れます。

2. ビターピットが発生しやすい条件は？

- ・ **土壌中の石灰が不足している**
石灰飽和度が10%以下になると、発生しやすくなります
- ・ **土壌中の養分比率が不適切**
苦土やカリに対して石灰含量が相対的に少ない場合、発生しやすくなります

3. 発生をおさえるために ～基本は土壌改良～

- ・ **石灰分の少ない土壌では**
苦土石灰などの補給で土壌改善を行います
- ・ **土壌養分のバランスが悪いときは**
石灰資材として苦土を含まないものを利用します
- ・ **窒素肥料を多肥している場合は**
窒素施肥量を減らして（0～4 kg/10a）、樹勢を安定させます

果実に供給されたカルシウムの大部分は、樹体に貯蔵されていたカルシウムです。つまり、その年に根から吸収されたカルシウムはほとんど果実に供給されません。



土壤に石灰を施用してもすぐにはビターピットの発生をおさえられない。



土壤改良とともにカルシウムの果面散布を行う

カルシウム剤の散布方法は？

カルシウム剤	使用濃度及び回数
セルバイン	落花10日後から800倍で3回、その後400倍で2回
スイカル	落花10日後から1000倍で3回、その後500倍で2回
カルハード	6月下旬から9月下旬までの間に1000倍で3～5回

多発条件

- ① 幼果期の肥大がおう盛な場合
- ② 7・8月の降雨量が少なく、8・9月の降水量が多い場合



このような条件下で、散布回数が5回未満の場合、多発する可能性が高くなるので9月中にカルシウム剤の散布をしましょう。



- ◎ 高温乾燥時には薬害を発生する可能性があるため散布は控えましょう。
- ◎ 殺虫剤、殺菌剤との混用は可能ですが、カルシウム剤を含めて4剤以上の混用は避けて下さい